

震災ボランティア派遣 FAX通信⑪



2011年6月1日

各組合・地域労連

御中

青森県労働組合総連合

青森市大野字若宮165-19

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

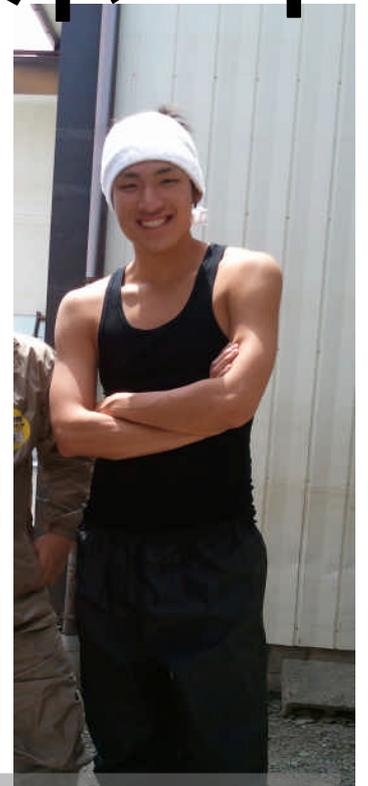
メール ao110@kenrouren.jp

【発信者】事務局長 有馬美恵

続 谷崎くんのレポート

ボランティア二日目。作業は昨日に引き続き同じ場所の完全清掃。午前中に庭のゴミ片付けと泥清掃を終わり、午後には側溝の泥出しをした。びっくりしたことに、泥の中から小さいカニと魚が出てきた。海はずっと遠くなのに、ここまで流されたのか。

この日は作業も順調に終わり、早めに切り上げる事ができた。そして人生初めての自衛隊風呂に行ってみた。自衛隊風呂とは、震災でお風呂やシャワーを使えない人の為に、自衛隊が用意してくれたお風呂である。もちろん無料で誰でも利用できる。広い敷地にテントが三つ並んでいて、入ってみると靴脱ぎ場、脱衣所、そして湯船という順番である。シャワーがないので、みんなで大きい湯船を囲み、そのお湯で頭や体を洗い、そのまま湯船に浸かる。なんともテントの中にお風呂って不思議だなーと思ったが、入ってみるととても気持ちがいい。一日の疲れや汚れが全て取れる気がした。



ボランティア最終日。今日はフローリングの板を外して、底の泥を取る作業。腐った釘がたくさん突き出ているので、少し危険が伴う作業だった。しかし誰一人ケガをすることなく無事に作業は終了した。この日が一番の力作業で汗はびっしょりだったし、連日の疲れで最後は疲れ切っていた。しかし、作業をしたお宅の方が「ありがとうございます」と深々とお辞儀をしてお礼をして頂いた時、私は嬉しくて、疲れなんてどこかへ飛んでしまった。本当に来て良かったと思った瞬間だった。僕はその方に何か言いたくて、急いで口から出た言葉は「一緒にがんばりましょう」だった。その方が、笑顔でしっかり「はい」と答えたあの瞬間を、僕は一生忘れないだろうと思った。

今回ボランティア活動に行って、あんなにも壊滅的な被害を受け、親しい方を亡くし、明日が見え無くなりかけている状況でも、全員が一丸となって復興に向けて頑張っていると強く感じた。テレビや新聞で見ただけでは感じる事ができない、全員が力を合わせていると肌で感じる事ができた。力作業ができない女性の方々はとてもおいしい食事を用意してくれて、それを食べて私達はまた頑張って作業ができた。皆そうやって繋がっている。しかし、それでも復興には長い時間がかかるだろう。仮設住宅や体育館に住んでいる人はまだ何千人といる。だが希望はゼロではない。一日でも被災者の方々が普通の生活に戻れるように、また何かできることがないか考え実行していきたい。

最後に、この機会を与えて下さった県労連のみなさんに感謝したい。ありがとうございました。こうやってまた繋がっているのだなと思いました。

週末ボランティアが 可能となりました

●金曜宿入り(前泊)、土曜・日曜ボランティア作業従事、日曜日宿泊(後泊)が可能です●

これまでは一週間のボランティアを基本としていましたが、週末(土・日)のボランティアも受け付けると案内がきました。ハードルが下がったので参加しやすくなると思います。ぜひ職場の仲間と参加を相談してみてください。各組合県本部を通じて、県労連に申し込んでください。

ただし、今後の参加に関しては「自家用車で来れる方」となっています。現地対策本部で借り上げていたバスがなくなり、宿から作業現場まで自力で行かなくてはならないからです。また、宿の定員がいっぱいの際は参加時期を変更していただくかはなりません。その場合、追ってご連絡いたしますのであらかじめご了承ください。

